

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価結果

第7期介護保険事業計画に記載の内容				H30年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護 予防・重度化防止	○年々高齢化が進み、要介護認定者に占める認知症のある人の割合も増加している中で、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく安全・安心に暮らし続けていけるような仕組み作りが必要である。 ○また、現在実施している介護予防の取組にも一層重点をおく必要がある。	○【安心して暮らせる福祉の充実】福祉サービスの充実を図り、認知症のある人にやさしいまちづくりを推進する。	○認知症への理解を深めるための普及啓発をする。 認知症サポーター養成講座 受講者数 (H29)16,059人⇒(H30)18,000人 (H32)22,000人	○認知症サポーター養成講座 受講者数 H30に2,447人受講 延サポーター数 (H30)18,506	◎	小中学校、地域住民、企業など多様な会場で実施することができた。 認知症への理解をすすめるために、現在開催している対象を継続するとともに、講座の開催場所が増えるよう周知を続ける。
①自立支援・介護 予防・重度化防止		○【介護予防・重度化防止の取組】 現在行っている介護予防事業を充実させるとともに、地域の中での自主的な取組を支援し、高齢者の社会参加の推進を図る。	○健康づくり地域サポーターの養成 登録人数 (H29)278人⇒(H30)300人 (H32)320人 ○健康づくり・やって未来や塾(自主運動サークル活動の支援) 活動数 (H29)27か所⇒(H30)29か所 (H32)33か所 ○がいなみっく予防トレーニング 利用者数 (H29)617人⇒(H30)700人 (H32)800人 ○ふらっと運動体験 利用者数 (H29)3,590人⇒(H30)4,500人 (H32)5,500人	○健康づくり・地域サポーターの養成講座を3回実施。 その他介護予防に係る講演会等について随時サポーターに案内を実施。登録数(30年度末):273人 ○健康づくり・やって未来や塾の自主活動団体への支援会場数(30年度末):29ヶ所 ○がいなみっく予防トレーニング利用者数(30年度末):534人 ○ふらっと運動体験 利用者数(30年度末)4,006人	◎	地域サポーターの高齢化に伴い、登録人数が減少している。新規の若年のサポーターを増やす必要がある。そのために募集方法として講座の内容を検討していく。 がいなみっく予防トレーニングの目的が運動習慣につなげることであり、利用人数が減少している理由として、ふらっと運動体験もしくは各事業所での運動継続につながっているのではないかとと思われる。
②給付適正化	○適正化事業に係る主要5事業のうち、「更新認定の認定調査票の点検」、「ケアプランチェックの充実」、「介護給付費通知の実施検討」について見直しが必要である。	○「ケアプランチェック」については、これまでのやり方を見直し、効率的に点検が出来るスキームの構築を行う。 ○「更新認定の認定調査票の点検」と「介護給付通知の実施」については、職員体制を含め検討を行う。	○「ケアプランチェック」については、国保連データをもとにケアプランを提出させ、点検数を200件程度実施する。	○地域包括支援センターの介護予防ケアプランの点検数(30年度末):7箇所50件 ○居宅介護支援事業所のケアプランの点検数(30年度末):7箇所35件	△	取組開始時期が遅かったため、実施期間が短く点検数が十分でなかった。今後は年度当初より、計画的に点検を行い実施数を増やしていく。